

資料2

令和5年8月31日

沖縄県総合教育会議資料

# 沖縄県ヤングケアラー実態調査

## —概要版—

沖縄県 子ども生活福祉部 青少年・子ども家庭課

# 1. 調査概要

---

## 調査目的

本調査は、県内の児童生徒を対象としたアンケート調査を実施し、ヤングケアラーの早期発見と支援施策等の検討を行うための基礎資料とする

## 調査対象者

県内の国公立学校（私立）の小学5年生から高校3年生の全ての児童生徒（特別支援学校等を含む） 136,065人

## 調査方法

各学校を通じて児童生徒向け、保護者向けの調査依頼文を配布し、児童生徒本人がWEBアンケートフォームにて回答筆記での回答を希望する児童生徒のために、別途、紙媒体の準備

## 調査期間

令和4年9月12日(月)～10月28日(金)

## 調査項目

国が令和2・3年度に実施したヤングケアラー関連調査の調査項目を基本としつつ、有識者検討会において、本県独自項目の追加等を行い、小学生(5・6年生)用調査票(28問)、中高生用調査票(30問)を作成

## 回収状況

回収率40.6%（=回収総数55,293／調査対象者数136,065人）(調査協力回答数47,180)

※調査協力回答数は、回収総数のうち調査協力意向で「はい」と回答した数(本調査の集計対象)

## 2. ヤングケアラーと思われる子どもの人数(推定)

- 今回の調査結果を活用して沖縄県独自にヤングケアラーと思われる子どもの人数を推定した。
- 下記の条件設定に基づくと、「ヤングケアラーと思われる子ども」は小学5年生～高校3年生の児童生徒全体の5.5%(約7,450人)、その中でも家族の世話により日常生活に影響がでて「何らかの影響が出ていて、支援が急がれる子ども」は1.8%(約2,450人)と推定される。

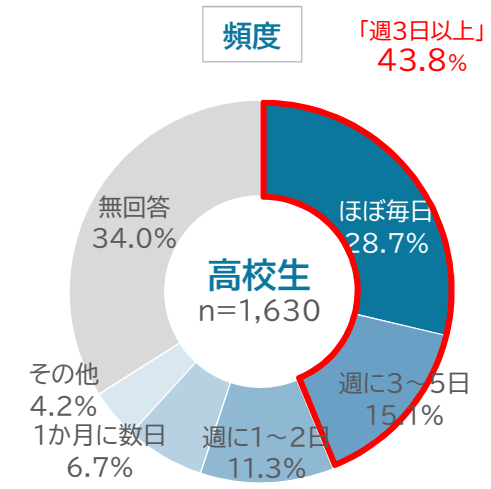
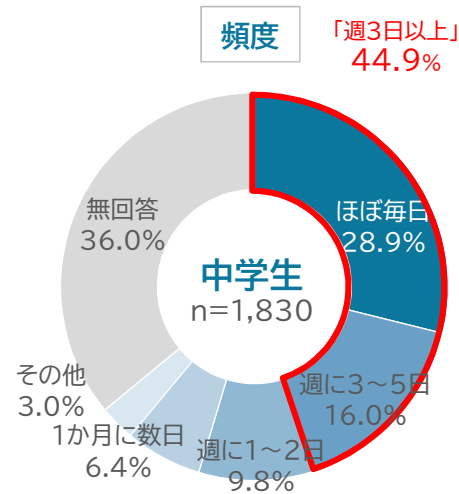
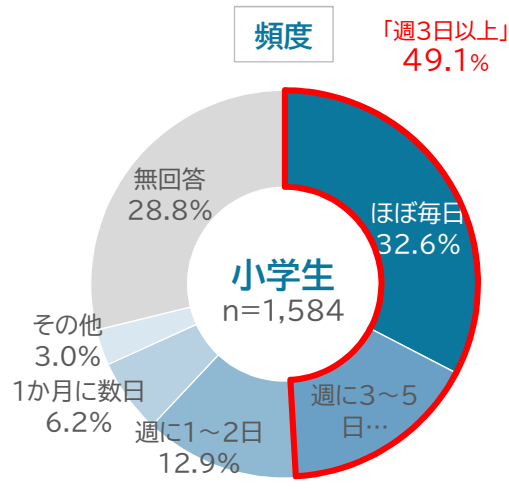
ヤングケアラー定義 (厚労省ホームページ)	<b>児童生徒 全体</b> (小学5年生～高校3年生)	<b>100.0%</b> (136,065人)
↓	<調査結果を用いた条件設定>	
本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを	世話をしている家族が「いる」 不定期のもの、比較的軽微なお手伝いの範疇のもの等を含む	世話をしている家族が「いる」子ども <b>10.7%</b> (約14,550人)
日常的に行っている子どものことで	家族の世話を ・「週3日以上」行っている、 又は、 ・「週2日以下」だが1日あたり3時間以上行っている	<b>ヤングケアラーと思われる子ども</b> <b>5.5%</b> (約7,450人)
責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがある	世話をしているためにやりたいけどできないことがある (1つ以上に該当)	うち、 <b>何らかの影響が出ていて、支援が急がれる子ども</b> <b>1.8%</b> (約2,450人)

※1.上記の条件設定はあくまで調査結果に基づく推定による設定であり、支援の対象を限定するものではありません。  
 ※2.推定数算出においては端数処理等を行っているため、児童生徒全体の人数に割合(%)を乗じた数値とは一致しません。  
 ※3.今回の調査の対象は小学5年生～高校3年生であったため、上記の推定数も小学5年生～高校3年生の児童生徒に関する推定数となっています。

### 3.世話をしている頻度と時間

※『世話をしている家族が「いる」』と回答した児童生徒の内数

- 世話をする児童生徒の4～5割が「週3日以上」家族の世話をしており、時間を見ると、平日では2～3時間、休日は4時間強となっている。



**時間** (%)

	平日	休日
3時間未満	40.1	26.8
3～7時間未満	16.8	23.0
7時間以上	3.3	12.4
無回答	39.8	37.8
3時間以上計	20.1	35.4

	平日	休日
平均(時間)	2.47	4.55

**時間** (%)

	平日	休日
3時間未満	35.7	26.7
3～7時間未満	12.0	16.1
7時間以上	3.8	9.5
無回答	48.5	47.8
3時間以上計	15.8	25.6

	平日	休日
平均(時間)	2.71	4.34

**時間** (%)

	平日	休日
3時間未満	29.8	24.0
3～7時間未満	13.8	15.9
7時間以上	3.6	8.5
無回答	52.8	51.5
3時間以上計	17.4	24.4

	平日	休日
平均(時間)	3.08	4.29

## 4.学校や周りの大人にしてもらいたいこと

- 学校や周りの大人にしてもらいたいことについて「13.特にない」「無回答」を除くと、小学生では「7.自由に使える時間がほしい」が17.2%で最も高く、次いで「1.自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が9.7%であった。
- 中高生では、「1.自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が最も高く、次いで「7.自由に使える時間がほしい」であった。

(%)

	1	2	3	4	5	6	7	8
	自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分の行っているお世話(ケア)のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分の行っているお世話(ケア)の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	家族が適切な治療や介護保険サービスを受けられるよう手続きをしてほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい
小学生(n=1,584)	9.7	3.0	1.4	3.3	4.2		17.2	
中学生(n=1,830)	7.7	2.5	1.3	1.5	1.6	0.9	7.1	4.9
高校生(n=1,630)	8.0	2.3	3.0	2.1	2.3	2.1	7.2	5.6
	9	10	11	12	13	14	無回答	
	自分と同じような状況の人と話をして悩みを共有する場がほしい	学校の勉強や受験勉強など学習をサポートしてほしい	収入が少ないので経済的な援助(サポート)してほしい	その他	特にない	わからない		
小学生(n=1,584)		9.1	4.0	1.1	42.9	8.2	21.1	
中学生(n=1,830)	3.1	5.7	1.8	0.5	47.8	10.4	22.5	
高校生(n=1,630)	3.1	5.0	5.6	1.3	40.1	12.6	26.1	

## 5.自由回答①

- 「ヤングケアラーを支援していくために必要だと思うことや、大人にしてほしいと思うこと」について、自由回答を14分類に分け、整理分析を行った。**小学生では、「5.助け合い・気遣い・思い合い(ボランティア)」の割合が高く、中学生では「経済的支援」に関する回答の割合が高い。**

小学生n=4,326 中学生n=3,668 高校生n=3,674

分類	対象	(%)	回答内容
1. 自由な時間がほしい	小学生	2.9%	■ いつも私が妹にしていることをすべて変わってもらい自分に自由な時間がほしい。(小学生)
	中学生	0.7%	
	高校生	1.0%	
2. (当人側から)話せる場所と人を作る	小学生	19.2%	■ 先生が否定せずに、親身に聞いてほしい。自分だって、やりたくて、やっているわけではなく、まだ、学生である私たちは、役所に行くとか、病院に行くとか。車がないので、連れて行くことができない。そんな時に繋がるイベントがほしい。頼れる大人がほしい。(高校生) ■ 電話相談が多いけど、親とか周りの人に聞かれないし相談することも知られたくないのでできればメール、DMで話したい。(中学生)
	中学生	15.2%	
	高校生	14.1%	
3. (支援側から)周りが気づいて声をかける	小学生	5.0%	■ 学校の先生や周りの大人が家庭の状況を知ることが大事だと思う。あとは、自分の場合、家族の病院付き添いで学校を早退することが多い。しかし、先生には家庭のこと言えないから「通院しているので早退します。」って言うことが多い。本当は自分自身は通院していないけれど、家族の病院付き添いをやらないといけないから、嘘をつかないといけない。また嘘をついたことに対しても心が苦しい。(高校生)
	中学生	7.4%	
	高校生	7.7%	
4. 助けたい・手伝いたい	小学生	7.2%	■ もし、友達がヤングケアラーだったら勉強を教えたり、自分ができるときをしたりします。(中学生)
	中学生	1.7%	
	高校生	1.0%	
5. 助け合い・気遣い・思い合い(ボランティア)	小学生	33.0%	■ 将来、福祉での貢献を目指している人が集まる団体(学校やボランティアとか)で、ヤングケアラーをサポートする実習などが増えてもいいと思った。(高校生)
	中学生	20.4%	
	高校生	16.5%	
6. 勉強を教え生活を支援してくれる大人がほしい(物資、ご飯、家事、代行)	小学生	25.6%	■ 誰かに手伝ってもらったり、自分1人の時間を作ってあげることも大切だと思う！ひたすら、看病とかだけだと自分の負担も多くて、学校の授業とかにもついていけなくなるから、学校には行かせてあげられるようにする！(中学生)
	中学生	14.1%	
	高校生	12.4%	
7. 家庭へ経済的な支援をする(給付金・学費・光熱費など)	小学生	10.1%	■ 経済的支援が一番だと思う。でも、自分が考えている経済的支援は将来返さないといけないやつではなく、返さなくてもいい支援金がいいと思う。(高校生)
	中学生	27.8%	
	高校生	27.0%	

## 5.自由回答②

分類	対象	(%)	回答内容
8. 福祉の支援(介護など)	小学生	8.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 老人ホーム等の福祉施設に預ける手続きを未成年でもやりやすいようにできる政策を、取って頂きたいです。(高校生)</li> </ul>
	中学生	11.8%	
	高校生	9.7%	
9. 本人の気持ちに寄り添う	小学生	5.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保護者や同居者に病気の方などがいた場合、市役所などの方が定期的に訪問して子供から話を聞いたり、子供のメンタルケアをする機会を設ける。(高校生)</li> </ul>
	中学生	2.5%	
	高校生	1.4%	
10. ヤングケアラーの理解を深める	小学生	2.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 少しでもいいからヤングケアラーは大変だという事を大人や学校の子達にも知って欲しい。(中学生)</li> </ul>
	中学生	10.9%	
	高校生	14.3%	
11. ヤングケアラーの生活状況や不安を知る	小学生	2.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ヤングケアラーの人たちは、自分ではヤングケアラーとは思ってないと思うので、小学生とかが家庭訪問するみたいに中学生になっても、家庭訪問みたいなのがあってもいいのかなと思います。(中学生)</li> </ul>
	中学生	4.8%	
	高校生	3.9%	
12. 学校に求めること等	小学生	11.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 気軽に先生や信頼できる大人に相談することが必要だと思う。(中学生)</li> <li>■ 先生が生徒一人一人のことをよく観察し、上辺だけの笑顔ではないかなど、きちんと判断することが大切だと思います。また、学級にひとつの箱を置き、ヤングケアラーの人が困った時はそれで相談すると良いと思います。(中学生)</li> </ul>
	中学生	7.4%	
	高校生	7.2%	
13. わからない	小学生	5.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ わからない。</li> </ul>
	中学生	7.6%	
	高校生	6.0%	
14. その他	小学生	1.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ヤングケアラーとかって周りにバレたくない。(高校生)</li> <li>■ あまりヤングケアラーのことはわからないけれど、自分からではなくて、見ていておかしい所や気持ちがいづもと違うときは声をかけて、言いやすくしてほしいです。(中学生)</li> </ul>
	中学生	10.6%	
	高校生	9.9%	

※児童生徒からの自由回答部分である「回答内容」に記入された意見等について、原則、原文を掲載しております。

# ヤングケアラー支援体制強化事業（令和5年度）



## 事業概要

関係機関職員の研修及び相談支援体制の強化等を実施

令和5年度はコーディネーター配置、ピアサポート体制の構築、オンラインサロンの設置等の新たな取組を実施

### 1. ヤングケアラー関係機関職員研修（継続）

福祉・介護・医療・教育等関係機関（要対協構成機関も含む）職員がヤングケアラーについて学ぶための研修等を実施

### 2. ヤングケアラー・コーディネーターの配置（新規）

支援体制整備に向け、関係機関等と連携して相談支援、適切な機関へのつなぎを行うコーディネーターを配置

### 3. ピアサポート等相談支援体制の推進（新規）

ヤングケアラー本人及び保護者等からの電話相談、SNS相談等への対応など、ピアサポート等の悩み相談支援体制を構築

### 4. オンラインサロンの設置・運営（新規）

ヤングケアラー同士が悩みや経験を共有し合うオンラインサロンの設置・運営



## 【令和5年度】ヤングケアラー等寄り添い支援事業（要支援家庭寄り添い支援業務委託）

### 事業概要

- 子どもの貧困に関する課題への対応として、多様な子どもの居場所の設置や、子供の貧困対策支援員の配置等により、支援体制の拡充が進んでいるところである。
- 一方、困難を抱える子ども（ヤングケアラーを含む）や家庭について、既存の支援体制では把握しづらい事案や、支援が届きづらい事案があることから、既存の支援体制を補完する仕組みが必要となる。
- そのため、①困難を抱える家庭を訪問し、必要な支援を直接届ける体制及び必要な支援に繋げる体制を実証するとともに、②必要とされる支援形態の検証を行い、今後の支援体制の拡充に繋げる

### R5年度実施内容

（R5年度予算）

委託料：96,117千円（財源：子どもの貧困対策推進基金）

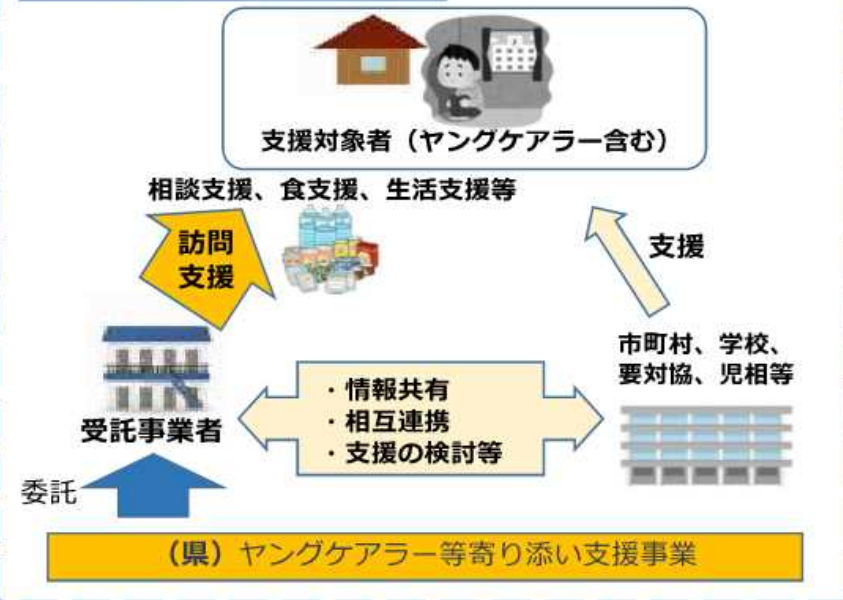
※R4年度:35,023千円

- 直接訪問支援  
訪問支援員を配置し、家庭を直接訪問し、相談支援、食支援、生活支援、学習支援等を実施するとともに、必要に応じて適切な支援機関へつなぐ。
- 支援体制の検証・提案

### 年度毎の取組

R4年度	R5年度	
<b>5事業者展開</b> （展開地域） ・北部圏域 ・嘉手納町 ・豊見城市 ・宮古島市 ・石垣市 ※9月以降実施	<b>6事業者展開</b> （展開地域） ・北部圏域 ・宜野湾市、沖縄市等 ・豊見城市、糸満市等 ・南風原町、宜野湾市等 ・宮古圏域 ・八重山圏域	※今後、市町村事業としての展開を見据えて、支援体制を構築していく。

### 業務フロー図



## 沖縄県HP ヤングケアラー関連ページ

<https://www.pref.okinawa.jp/site/kodomo/shonenkodomo/youngcarer.html>

### 沖縄県の相談窓口について

沖縄県では、家族のお世話などについて悩みがある時に利用できる相談先があります。また、各市町村においても、ヤングケアラー担当課の窓口などでの相談が可能です。

### 県の相談窓口

#### [○ 子ども若者みらい相談プラザ「sorae（ソラエ）」](#)

◆ソラエ（なは）対象地域：北部圏域（※）を除く県全域

- ・電話：098-943-5335（無料通話）
- ・開所日時：火～土曜日の午前10時～午後5時（祝日等除く）

◆ソラエ（なご）対象地域：北部圏域（※）

- ・電話：0980-43-8300（無料通話）
- ・開所日時：月、水、金曜日の午前10時～午後5時（祝日等除く）

（※）名護市、本部町、金武町、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、恩納村、宜野座村、伊江村、伊平屋村、伊是名村

#### [○ 親子電話相談【沖縄県教育庁生涯学習振興課】](#)

- ・電話：098-869-8753（無料通話）
- ・相談時間：月～土曜日（日・祝日・年末年始除く）の午前9時～午後10時

（※時間外は文部科学省の24時間子どもSOSダイヤルに繋がります）

### 市町村のヤングケアラー担当窓口

[PDF 沖縄県内市町村ヤングケアラー担当窓口一覧 \(PDF : 86KB\)](#)

